

平成30年度「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」

事業報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【大府市立大府北中学校】

1 実践テーマ	【 IV, V 】
2 実施対象者 (参加者・人数)	全校生徒 728名, 職員約40名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (学級活動)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (全校集会)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けての関心を高め、オリンピックの精神を学ぶことを通じてグローバルな社会に生きる人間としての精神を身につける。</p> <p>実際にオリンピックの現場で活躍されている指導者の方の話を聞くことで、オリンピックの理念や精神を学ぶ。</p>
5 取組内容	<p>(1)学級活動</p> <p>オリンピック・パラリンピックの歴史や精神を学ぶ事前学習</p> <p>DVD「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を各学級で視聴し、オリンピック・パラリンピックについて関心を高め、その歴史や精神を学んだ。</p> <p>ワークシートを準備し、ビデオを視聴しながら記入することで、課題意識をもって視聴に取り組めるようにした。</p> <p>また、今回の学習が講演会とともに東京2020大会に向けた全国的な活動「オリンピックムーブメント」の一環であることを伝えた。</p>



5 取組内容

(2) 講演会 (全校集会) 11月28日 (水)

講師 志土地^{しどち} 翔大 氏

- 至学館大学レスリング部コーチ
- 2016 リオデジャネイロオリンピック女子レスリングコーチ
- 現女子レスリング日本代表コーチ

大府北中学校の校区に位置する至学館大学は、前身の中京女子大学のころから女子レスリング部で全国的に有名であり、多くのメダリストや有力選手を輩出している。

講師の志土地氏は5年前から至学館大学レスリング部のコーチを務め、コーチ就任3年目で迎えたリオデジャネイロオリンピックでは大きな成果を収めている。その経験を踏まえた講演会を行っていただいた。



「レスリング」という競技が東京2020大会でもメダルが期待されている種目であることや、レスリングのルールや見方を教えていただいた。



「レスリングの構え」を行う生徒。

「オリンピッククイズ」を交えながらの楽しい講演会。



講演の後半では、オリンピックの理念についてお話があった。

リオ五輪で金メダルの土性沙羅選手と3年間、大変な苦労を共にしながら金メダルを勝ち取った経験から学んだ大切なことと、オリンピック理念とのかかわりについてお話をいただいた。オリンピックの精神である。「リスペクト 互いを認め敬意を払うこと」「フレンドシップ 仲間信じて協力すること」「エクセレンス 何事もあきらめないでベストを尽くすこと」これらのことは、スポーツのみならずこれからの人生を切り拓く中学生にとって大切な精神であると教えていただいた。



6 主な成果

講演会後の生徒の感想からはオリンピックやパラリンピックについて理解が深まったことが多く伝わってきた。

私は、講演会を聞いて、オリンピックやパラリンピックは色々な国とつながる事が出来るんだなと思いました。オリンピックは1896年から人々をあつめてきた事が分かりました。北中の二年生にもこの国の代表になれる人がいる事がすごいと思いました。2020年には、東京に行くのでオリンピックの様子をみたいですね。私も、活躍する選手を応援出来たらいいです。

私は最後の、「最後まであきらめない気持ち」周りの人への感謝の気持ちの話が心にのこりました。それがくれたのは、最後まであきらめず、オリンピックで優勝した選手の話にも、感動しました。オリンピックで、2位や3位をと、という選手も、悔しい思いをしたこと、努力を人の何倍もしていることを知りました。2020年の東京オリンピックは、今回の講演会で3日間と聞いて、楽しんでいると思います。

私は「オリンピック」という名前が元々、たもつ、レスリングの18-1675を今年で知られたので、オリンピックがオリンピックスポーツにのびた様子を知られる機会になりました。オリンピックの元々、ギリシャのオリンピックで行われた大会の写真や絵を見て、人々に前からスポーツに対する強い思いが世界にある、たもつと、思い、驚きました。今回の話を聞いて、今年でオリンピックに対する気持ちが少し強くなりました。

パラリンピックの始まりが、「傷ついた兵士たち」のリハビリのために始まったのだという事、とても良いなと思いました。誰でもできる、とか、平和、平等、という言葉が本当に好きだなと感じたからです。選手村(?)の食堂も、どの国の人でも自分の国であったように食事ができるのも、差別のないところがなくて、優しい世界だなと思いました。2年後、どんな形でオリンピックに関わるかは分かりませんが、それを通じていい方向に向かえるといいなと思います。

7 実践において工夫した点	<p>本校の最寄駅の駅前ロータリーには「金メダルのまち共和」という大きな看板が掲げられており、校区内の至学館大学が多くのメダリストを輩出していることは生徒もよく知っている。しかし、実際にオリンピックの競技や選手とのかかわりとなる機会が今まであまり取れなかった。</p> <p>今回の事業では地元の大学である至学館大学からオリンピックにかかわりのあるコーチを招きすることで、自分たちの住む地域に、世界で活躍している人たちがいることを実感させることができた。</p> <p>また、講演会の事前学習では、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を視聴することで、オリンピックだけでなくパラリンピックの理念や歴史も伝えられるようにした。</p> <p>視聴の際にはワークシートに記入する課題を設けることで、意欲的に視聴する態度をもたせるようにした。</p>
8 主な課題等	<p>年間の行事予定に対して新たに加わった講演会となったため、日程の調整が困難であった。至学館大学に依頼をするという方針は早くからあったものの、調整には時間がかかった。大府市教育委員会を通じて至学館大学に依頼をしていただき、今回の講演会につなげることができた。</p> <p>講演会の打ち合わせの調整も困難があった。至学館大学は本校の近隣に位置するが、講師の志土地氏は選手とともに世界中を転戦しておりなかなか連絡が取れなかった。</p> <p>生徒にとって心に残る講演会になったが、時間をかけて継続的に学習をしていくという活動にはできなかった。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>現2学年は次年度の修学旅行において東京 2020 大会の会場となる新国立競技場を見学する予定である。今回の事業が事前学習の一部となり、今後の学習の動機づけになると考えられる。</p> <p>次年度以降については同様の事業を行う予定はないが、資料DVDについては今年度視聴していない新入生に視聴させ、オリンピック・パラリンピックの理念を伝えていきたいと考えている。</p>